

平成 28 年度
区長と話そう、聞いてみよう
第3回すぎなミーティング報告書



平成 29 年 3 月 18 日 (土) 13:30 ~ 15:30

(杉並区役所 9 階)



杉並区

すぎなミーティング

テーマ

「みんなで考える子育てしやすいまち」

参加者 区民21名（男性7名 女性14名：22歳から39歳までの方で無作為抽出によりご案内をお送りした2000名の中から希望者に参加いただきました。）

この懇談会は、子育て中の方も気軽にご参加いただけるよう、当日に託児所を設けました。

杉並区長 田中 良

区関係者 子育て支援課長・保育課長・保育施設整備推進担当課長・児童青少年課長
広報課長・広報専門監・区政相談課長

ファシリテーター

山ノ内 凜太郎さん

合同会社 Active Learners 共同代表

（前職：一般社団法人ISP 所属）



懇談会概要

1. アイスブレイク 参加者全員 互いに挨拶 ハイタッチ
2. 区長挨拶 「子育て支援に懸ける思い」について
3. グループミーティング
4. 全体ミーティング
5. 区長挨拶

すぎなミーティングについて

「支え合い共につくる安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並」の実現に向けて、意見交換の場を設けて、区政に対して日頃発言する機会の少ない区民の方々の声を、幅広く受け止めていく取組が「すぎなミーティング」です。

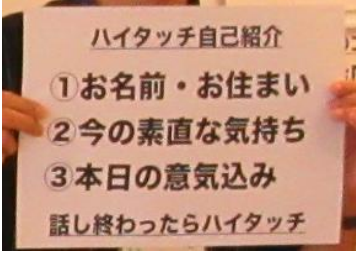
区と区民の双方向のコミュニケーションの充実を図るとともに、いただいた意見を区政に活かしていきます。

1. アイスブレイク 参加者全員 互いに挨拶 ハイタッチ

参加者は無作為抽出により選ばれたみなさんで、お互いに今日が初めての方ばかりです。場の雰囲気や和らげるため、ファシリテーターの提案でハイタッチ自己紹介をすることになりました。



子育ては大変だけど、
子どもはかわいいよね



よろしくお願いします



みんなは何を
思ってる?



緊張しますね



今日はどちらから
お見えですか？

今日話すことは決
まっていますか？

子育て中ですか？



2. 区長挨拶 「子育て支援に懸ける思い」について

みんなで話をする前に、本日のホストである区長から、この一年、子育て支援にかける思い、特に、「すぎなみ保育緊急事態宣言」が、なぜ必要だったのか、お伝えしました。



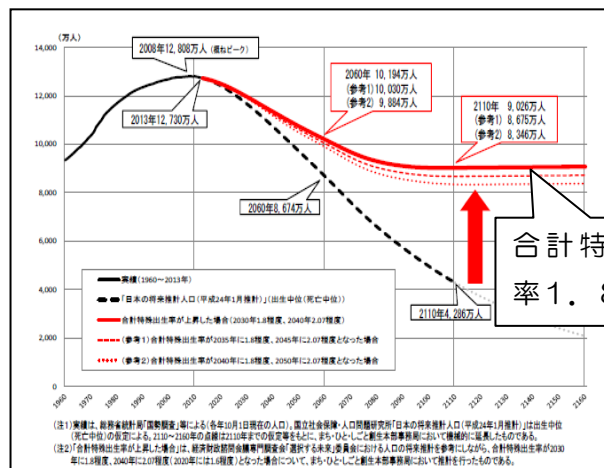
合計特殊出生率の低い東京

地方では、過疎化や高齢化がすすんでいます。逆に東京では地方から流入で人口が増えています。東京の人口はあと13年で50万人ほど増えるとされています。

人口は増加しても、一方で、東京は全国一合計特殊出生率が低く、全国平均が1.46人、東京は1.24人と、全国平均をかなり下回っているのが現実です。

合計特殊出生率が低いままだと？

全国で最も合計特殊出生率の低い東京に人口が集中することは、日本の人口減少に拍車をかけるとともに介護施設の整備や介護人材の確保など高齢者対策をより困難にさせてしまいます。



(出典 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 資料)



持続可能な社会保障制度のために

社会保障制度を持続可能なものにするためには、合計特殊出生率を1.8人以上に回復する必要があります。

希望する人に希望のかなう環境をつくる

そのために、子どもを産み育てやすい環境づくりが必要です。子どもを持つことを強制するのではなく、それぞれの多様な価値観を前提に、結婚したい、出産したいけど心配でブレーキを踏んでしまう、そのブレーキを踏まなくていい環境を整えるということです。

希望する人に希望のかなう環境をつくる。これが杉並区を預かる私の大事な仕事だと思っています。

子育て支援の問題点は？

女性の進出がどんどん進んでいるという社会の変化をとらえきれずに、労働環境が男性中心に固定化されていることです。そういうことが、女性の出産・子育ての大きな障害になっています。



保育園の数も 予算も手厚く

女性の就業率の上昇や杉並の住宅事情からすると保育園の申込数の増加傾向も続くと考えられます。

私が就任してから、保育園の数は58園を106園に、予算も64億円から28年度は224億円と約3.5倍に増やしています。



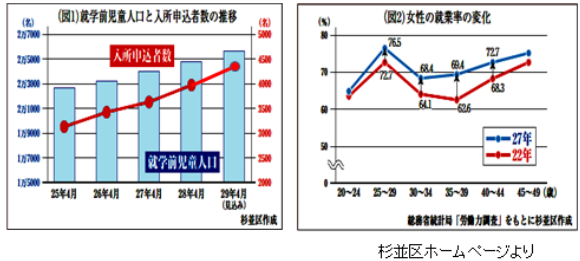
これからも認可保育園中心に整備を進めます。

これからも、待機児童対策を推し進めていきます。子育て環境は改善されてきたと思います。しかし、認可保育園への入園希望者は、ここ2年間で800人増えています。これは驚異的な数字で、これに追いつくため29年度以降も可能な限り、多くの認可保育園を作っていく計画を立てています。

入所申込者数の増加

平成28年に4,000名近くの申込者数が、平成29年には4,457名に増加。増え続ける入所申込者数

背景 就学前児童人口の増加と女性の就業率の上昇

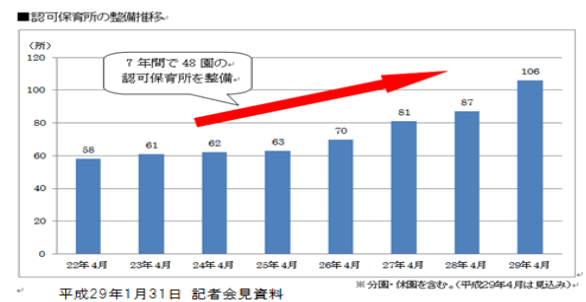


保育園を増やすことが必要

預かってくれる保育園が足りない。また、保育園に入るためにこんなに苦労するのなら、第二子を諦める人もたくさん出てくるのではないかと。

そういう障害をなくす。しかも、スピーディにやるのが区の役割です。

平成22年 58所の認可保育園を 平成29年4月 106所に



平成28年の保育関連経費は 平成22年の約3.5倍



3. グループミーティング（考えや話したいことを整理してみましよう）

ファシリテーターからの提案で、全体ミーティングに入る前に、みんなで話合いたいテーマを決め、それぞれに考えを整理するため小グループに分かれた話し合いを行いました。



ファシリテーター

みなさん、まだまだ緊張がとれないようですね
全体の話合いに入る前に、小さなグループになって
話したいことを整理してみましよう。
みなさんどんな話題をお持ちですか？

テーマ1 子育てするのに障害になることは？

専業主婦への支援も必要

近隣の母親同士の支え合いがないと

実家の助けが欠かせない

育児休業が取れない職場もある

保育園入園の申込指数が低くなるとショック

保育園は迷惑施設だと思われ増設がスムーズにいかないというニュースにショックを受けた

二世帯住宅を建てる土地がない

テーマ2 子ども関連の情報の入手について

幼稚園・保育園で子どもを通じて広報を配布したらどうか？

区の情報は欲しいけど、新聞を取っていないから広報はみてない

広報紙はどこで手に入るの？

子育てに絞って毎月のイベントがまとめて載っている紙面があるといい

スマホで使える「マチイロ」というアプリがあるよ

幼稚園のママ友から口コミで情報ゲットしている

保育園はママ同士のコミュニティがない

テーマ3 仕事と家庭の両立

保育園が OK だったからよかった。そうでなければ退職だったかも

男性の育児休業の取得を促すような仕組みが必要では？

育児休業から復帰した時、自分のポストがあるか？不安で育児休業が取れなかった。

妻より自分の方がマイペースなので、育児休業の取得には自分の方が向いていたかも

収入の関係で、夫の休業は望まないでも、子育てのために定時に退社できる制度があれば、楽になると思う

育児休業を取ろうと、上司に相談したら否定的な感じだった

保育園の送迎バスがあれば、近くに保育園がなくても安心して預けられるし、保育園の送り迎えと仕事の両立ができると思う

保育園に入れなかったため、仕事を辞めた同僚がいた



テーマ4 そもそも 子育てってなに？

もっと子育てを自分の時間として楽しむことができればいいなあ

気軽に友達の家遊びに行けない時代、子どもの遊び場はどうする

いつも行くのは、公園と児童館かな？

ちょっとした時に子どもを預かってもらえたら

自分の家に近所の子供たちが集まってくるようなミニ児童館を作りたい

地域の仲間で支え合うことができればいいね

公的な支援だけというのはどうかな？
もっと多彩な子育て支援の機関はないのだろうか？

何かあった時に、責任のことを考えると、気軽に預かるというのは難しいかもね



4. 全体ミーティング（グループミーティングを経て、区長を囲んでの懇談会です）

区民 保育園申込時の指数制度を見直してほしい

2人の子供がいます。2人とも認可の保育園で非常に助かっています。私は子育て中に実家の援助を得られるように、近くに引越しました。いざ保育園に申し込んだら、実家が近いと指数が低くなるのがわかりショックでした。自分で環境を整えたのに、点数が低くなるのは納得できないと思いました。改善できないでしょうか。



区長 まずは保育施設の充実を

指数の設定には、いろいろな意見があると思います。ただ、保育施設が充実していれば、こういう問題もなくなると思います。まずは保育環境を充実させ、最終的には、指数行政からの脱却を目指したいと考えています。

区民 子育ての意識改革を 男性の参加を！

先ほど、女性の社会進出が急速に進んでいるとうかがいましたがそれに対応して、これからは、男性もどんどん育児休業を取得することが必要だと思います。そうすると、民間ではある程度キャリアアップを諦めることになるけれど、それでも良いと思える意識改革が大事になってくると思うのですが、いかがでしょうか。



区長 意識改革は大事

やはり意識改革は大事ですね。今、働き方改革として、国の方でも進めようとしています。世の中の一歩目立つところ、例えば、トップ企業から、率先して進めるという姿勢が必要ですね。



区民 男性の育児休業に補助金を

意識改革と並行して、男性も育児休業を取り易くするため、男性が育児休業を取った場合、生涯年収の低減とかの不利益を補てんする補助金を出してはどうでしょうか？



区長 重要なのは補助金より不安の解消では？

男性が育児休業を取った時に、金銭を給付するというのは女性が取った時と取扱いを変えることになり難しいと思う。必要なのは金銭給付ではなく、育児休業を取った時に、その後の昇進や職場復帰についての不安をなくしていくことではないでしょうか。

区民 子どもを持つことにブレーキが

夫婦だけの世帯でお互い派遣社員です。育児休業が取れる環境でないで、子どもを作ることを躊躇している状態です。子育てのことを考えると郊外に実家があるので、引っ越すことも考えています。

区長 育児休業をとれるか、就労環境の差が大きい

福利厚生がしっかりしている会社で、3年間の育児休業が取れるところがありますが、中小企業では、まだまだ育児休業が取れない現状があります。また、働いていても、育児休業制度の対象にならない場合など、就労環境の差がすごくありますね。



区民 育児休業を取ることへの不安もあります

子どもは2歳9カ月で、この4月から保育園に入ることができてほっとしています。妻は今でも時間短縮で働いています。民間企業なので育児休業は取れますが、そうするとやりがいのある仕事に就けなかったり、キャリアプランを見直さざるを得ない状況になります。仕方ないことと思いますが、もっと企業に制度を充実してもらうことが必要だと思います。



区長 国に法の整備を提案していくことが必要

この一年、保育園を増設し2000名を超える定員増をはかりました。ただ、自治体の努力だけで、子育て環境の整備を完全なものにするのは難しい。

先ほどもお伝えしたように、育児休業が取れるかどうか、就労環境の差は大きいものがあります。子育て環境を改善するには国の強い主導が必要ではないでしょうか。まずは国が、中小企業や非正規雇用の労働者も育児休業が取れる環境を整えていくことが急務であると考えています。そこで、保育園の増設に力を入れる一方で、国に労働法制の充実を促していくことが、地方自治体の重要な役割だと考えています。





区民 専業主婦にも支援を

妻は専業主婦です。休みなく、ひとりで子育てに頑張っている状態です。自分も協力していますが、仕事との関係で限界があります。妻の負担を軽減していくような制度が必要ではないかと思うのですが？

区長 子育ての大変さを一時、忘れられるようなサービスを

奥様が子育ての大変さを一時的にでも忘れられるような工夫、高齢者介護のショートステイのような制度が身近にできるのが、理想だと考えています。

区も、保育施設の一時預かり、イベント出席時の託児や自宅託児サービスに子育て応援券が使えるように負担軽減に努めています。29年度から実際の利用状況を考えて、一回の使用限度を5000円から20000円へ拡大しています。



区民 お母さんたちの助け合い

今住んでいるマンション内ではお母さんたちが、互いに助けあって子どもの面倒を見ています。とても助かっていますが、そういった地域のコミュニティーを育てることが必要でないでしょうか？



区民 地域コミュニティーは大事

「子育てしやすいまち」になるためには、周りの人たちと協力しあいながら子育てできる環境が必要だと思います。体調のすぐれない時とか、安心して預けられる地域コミュニティーが身近にできればと思います。

区民 安心して預けられる制度があるといい

子育て支援として「おせっかいおばちゃん作戦」と銘打って近所の人子どもを預かる等、区民同士で助け合う。そういうコミュニティーづくりに力を入れることも必要だと思います。けがなど、不慮の事態に対応できるよう保険制度なども必要ですが……



区長 子育てのネットワークが大事

地域のコミュニティで助け合うということは、大事なことだと思います。区では地域子育て支援の拠点として「子ども・子育てプラザ」を14カ所整備することとしています。その施設で乳幼児親子が相互に交流ができる場を設けたり、一時預かり事業、地域の子育て支援団体の活動支援や関係団体によるネットワークづくりに力を入れています。



区民 ママさんどうしをつなげる

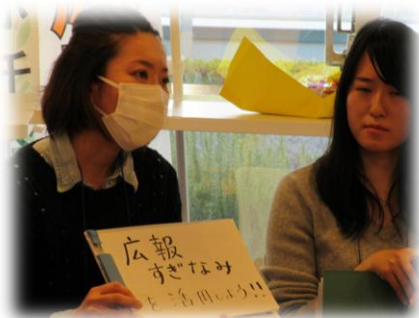
私は、さっきのグループミーティングで幼稚園に子供を通わせている母親と保育園に通わせている母親とで、持っている情報に違いがあると感じました。ママさん同士をつなげる工夫や制度があると、必要な情報に、よりの確にたどり着けるのではないかと思います。



区民 広報すぎなみは大事な情報源

広報すぎなみに載っている情報を効率的に伝える方法を考えることが必要だと思う。

広報すぎなみには、子育ての情報がいっぱい載っていると聞いて、もっと活用したらいいのではないかと思います。



正直なところ、あまり見ていませんでした。新聞折り込みに入っているけどこれクイズとか載ってるのかなと思っていました。

区長 広報すぎなみの紙面づくり、大事ですね

これを機会に、今度からちょっとは広報を見ようかなという気になってくれると嬉しいです。

見る人は必ず一定程度います。ですから広報にイベント等のお知らせを載せると、何十人かは必ず集まってくれます。子育て中の世代が、まず広報の子育て情報を最初に見ようと、思うような紙面づくりが必要です。



区長 身近な情報が子育てには役に立つ

私にも息子がいます。小さい時から活発なタイプだったので、あちこち連れて行ったものです。動物園に行ったり、一日中都電に乗せたりね。どこかの公園に行って玉けりしたりとかね。いろんな所へ連れて行って、今振り返ってみると、確かに喜んでいただなと思いますね。

だから、身近な情報は子育てには欠かせないですね。

区民 子どもを巻き込んだ情報伝達は？



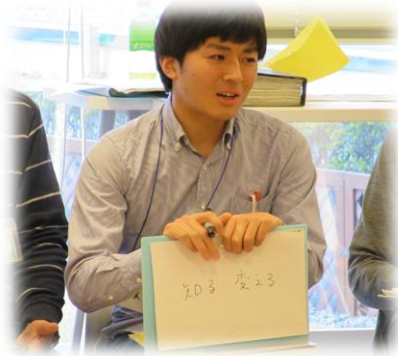
今の話と繋がっていると思いますが、学校や保育園で子どもに広報を持たせて親が家で読むというのはいかがでしょうか。子どもを使った配布というのがあってもよいと思いますね。

区民 まちのハード面からの子育て支援

子育てしやすいということをハード面から考えると、狭あい道路の整備とか交通網の充実が必要ですよね。安心して家族で出かけることができるというのがなによりだと思います。



区民 イメージをよくする。子育て転職の支援は？



独身ですが、将来結婚して杉並に住むかどうかはわかりません。杉並は子育てがしやすいというイメージを日頃から発信していくことで、若い人が、家庭を持って杉並に住みたいと思うようにしていくことが必要。あと、子育てのための転職を支援するとかはできないでしょうか？

区民の皆様 의견

全体ミーティングは区長との対話を中心に構成しております。一部、グループミーティングでの対話も含まれています。

① 保育園入園の
指数制度をなくす。
② 子育て世代の親も近くに
住んで一緒に子育てできる
環境を整える

2人
第2子と検討できる
ような仕組み作り

おせかいおはちゃん作戦
町内の集会所で、こども保育園が
ファミリーサポートのごまんの活用促進、
子育て支援をいこう。

広報
すぎなみ
を活用しよう!!

男性の育児参加を
促進する
-意識改革
-男性の育児時短に
補助金

幼稚園ママと
保育園ママが知恵とかを
合わせる場所が増えたら
もっと楽しく暮らせよう

ご近所と仲良くする。
→子どもを安心して
あずけられる

安心して外出できる
道、交通手段の整備

1人だけではなく、周りの人たちと
一緒に子育てを出来る環境づくり。
困っている事があっても、悩みがあったら
分かちあえ、相談出来ること。

子供を育てることと育はことなり
11-10-10-10

子供目線も
取り入れる



① 保育園入園の
指教制度をなくす。
② 子育て世代の親も近くに
住んで一緒に子育てできる
環境を整える

共有の場所も
有効活用する!

不満・不安も
共有する場が
たくさんある。

子育てがたのしい
巧 杉並

もっと区報に目を向けて
活用しよう。

子育て・
イベント情報の
集約化



5 区長挨拶



今日はありがとうございました。

みなさんのような若い世代は、働き盛りの世代で、子どもを通じた地域社会とのつながり以外は、あまりないのかもしれませんが。

自分を振り返ってみても、夜行性の区民といいますか、仕事して、夜遅く帰ってきて、寝て、朝出勤ということで、地域とのつながりは、なかなか作りづらかったですね。

ただ、そういう人達が多いからと言って、その人達の声が区政に反映されないということだと、バランスのとれた住宅都市としては、発展しないと思っています。

みなさんの世代が、自分たちの生活の中で求めるものを、それがすべて実現するかは別として、何が今、必要なのか意見を発信していただけることは非常にありがたいことです。

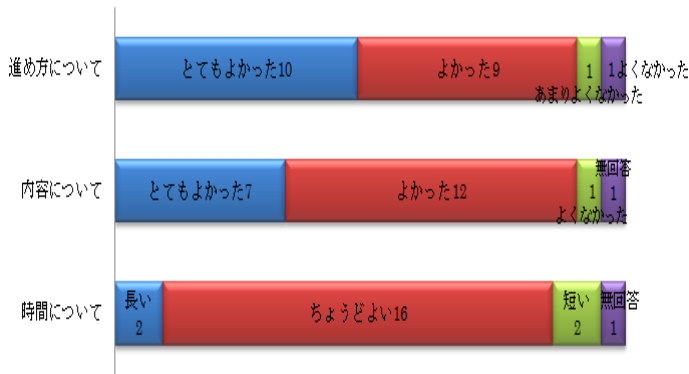
これからも積極的に区政に対して意見を発信していただけたらと思っています。

この一年間、今日のテーマ「子育て支援」について、目標を立てて取り組んできました。保育定員数は相当程度、確保しましたが、女性の社会参画はもっともっとすすんでいきます。それに対応する社会の変化が、まだまだ、スローです。そのギャップを埋めるのが、私の使命だと考えています。

これを機に、区政にみなさんがつながっていると感じていただければ、今日はいい機会になったと思います。また、こういう機会があれば、是非、ご参加いただければと思います。どうもありがとうございました。

すぎなミーティング アンケート

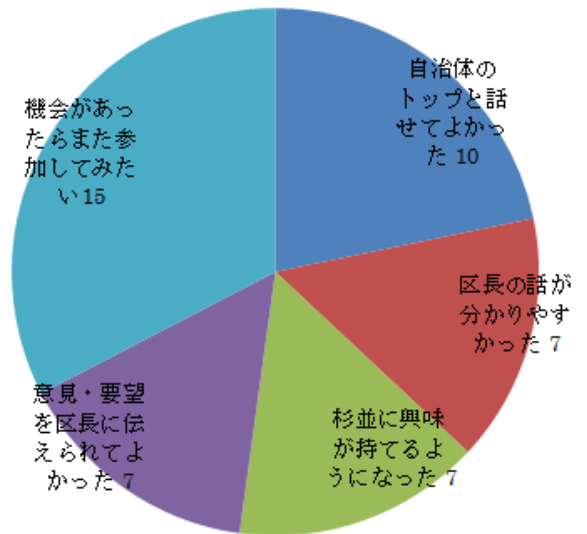
1. 懇談会の進め方や内容はどうでしたか。 1つ回答



2. 話しやすい雰囲気でしたか。 1つ回答



3. 懇談会に参加した感想は？ (複数回答可)



自由意見

この話し合いがどう活用されるのかフィードバックを

今以上に、広報「すぎなみ」を活用したいと思った期待しています

幼稚園ママ以外と子育ての話ができたのが良かった

折角、集まったのだから今回のテーマについて、もっと詳しい説明をして欲しかった

ゴールがわからないので、ゆるい雰囲気だった。意見はどうなるのか？

子育てを支援する会社に懸賞金を出して、その懸賞金で企業内保育施設をつくる。場所の問題もクリアできるし、待機児童解消にもなるのでは

もっと保育の現状を知ってもらって、保育園を迷惑施設と考える住民意識を変えていくことが必要

区長の考えを知ることができ興味深かった

実際の政策とこの懇談会がどうつながっているのかわかりにくい

独身男性や子育てをしていない人を参加させた理由は？

子育てを考える杉並に良い印象を持ちました

子育て環境の整備にはお父さんの子育て参加も大事

具体的な子育てアイデアを出して実施できるような話し合いがしたい

今後も子育てのことで話合えればよいと思う

区長と直接話せて、杉並区政に興味がありました

学童保育についても話し合いたい「小1の壁」についてなど

編集後記

みなさんには、慣れない雰囲気の中だったにも関わらず、活発に発言をいただきありがとうございました。ここに報告をさせていただくとともに、いただいた意見や提案を、関係部署で情報共有し、今後の取組みに活かしてまいります。

区政相談課

この報告書は、出席者の方の意見と区長からの回答を抜粋して編集させていただきました。

～区政を話し合う会報告書～

平成29年4月 編集・発行 杉並区総務部区政相談課

〒166-8570

杉並区阿佐谷南1丁目15番1号

TEL03-3312-2111